

「分子生体応答セミナー」を開催

2016年6月16日

6月16日（木）に、がん進展制御研究所4階会議室において、学際科学実験センター・実験動物研究施設長である大黒 多希子先生を招いて、分子生体応答セミナーを開催しました。

セミナーでは「マウスモデルを用いた子宮機能および疾患の解析」という演題で子宮機能解析に関わるようになった経緯を含め、子宮体癌および受精卵着床不全の研究について講演をしていただきました。

セミナーには、研究所内外の教職員、大学院生等約30名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



分子生体応答研究分野セミナー

日時:2016年6月16日(木)午後5時

場所:がん進展制御研究所・会議室(4階)

演者:大黒 多希子 教授
(学際科学実験センター・実験動物研究施設長)

演題名:
マウスモデルを用いた子宮機能および疾患の解析

子宮は恒常的に遺伝子/タンパク質の発現状態と細胞形態を変化させる非常にユニークな組織である。この変化は、卵巣由来のホルモンであるエストロゲンとプロゲステロンにより精密に制御されているが、特に興味深いのは、子宮を構成する3つのパーツ、上皮、間質、筋層が、卵巣ホルモンにより個々別々に経時的に制御されるが、その後、この3つのパーツが相互的に作用することによって正常機能を保持することである。つまりこの精密で複雑な機構が少しでもずれると正常な機能が損なわれ、癌や不妊などの疾患を引き起こす。大黒教授は、特にどのような“ずれ”がこのような疾患を引き起こすのかということについて、正常動物と疾患動物を比較することにより解明してきています。本セミナーでは、子宮機能解析に関わるようになった経緯を含め、子宮体癌および受精卵着床不全の研究についてお話していただく予定です。

向田 直史(分子生体応答・内線6735)